

活動報告  
「高橋玄洋先生(人工樹林)」の舞台を歩く  
……所沢中央公民館から弘法の三ツ井戸  
Cグループ担当……

- 開催日時 2022年9月15日(木) 9:30~12:00  
■参加者 18名(男性12名・女性6名)

■はじめに

高橋玄洋先生の「人工樹林」は所沢の戦前から戦後の旧町内を舞台にした作品です。井筒橋付近の安藤理髪店の主人公ヨシと娘の保子を中心に展開する男達との物語です。今回担当の佐藤八郎さんのご提案により、この作品の舞台となった旧町内を実際に歩くことになりました。作品をより深く追体験出来ればとの趣旨です。当日は曇り空で思ったより凌ぎやすく楽しく散策が出来ました。

■コース概要

所沢市中央公民館(集合) → 三八の市(實蔵院) → 学校新道(所沢小学校) → 山田横町 → 歌舞伎座跡(現在高層マンション) → 新妻(鰻料理)跡 → 七生橋(現在七世橋) → 庚申塚(妙見様) → 飛行機新道 → 旭橋 → 御幸町駅跡 → 松の湯跡 → 井筒橋(袂に安藤理髪店が出てくる) → 浦街(張見世跡) → 深井醤油(ヤオコー) → 黒須医院 → 神明社 → 弘法の三ツ井戸(ここで解散)

■散策記録……現地と関連する「人工樹林」の文章は『 』に参考に記載しました。

□所沢市中央公民館(9:30集合)

出発前に佐藤さんから「人工樹林」の登場人物資料を配布され、これから散策するコースの説明にて出発です。



□實蔵院参道・・(9:35着)

『所沢小学校は街道筋の南裏手の高台にあった。ヨシは三八の市の立つ街道を渡って学校に通う。』  
参道にて所沢の三八市の成り立ちについて佐藤さんより説明あり、当初は旧町内銀座通りに開かれていたがその後、實蔵院参道にて野菜や植木などを商う市が開かれていました。

□学校新道・・(9:45着)

物語のなかで菅原啓策(陸軍少尉)の住居について『それで判ったことは小学校の横を通っている学校新道の小さな家を借りて住んでいること、歳は29歳で独身・・・』とあります。



昭和32年の学校新道清掃



現在の同じ場所から撮影（左の垣根は法華寺です。右側が所沢小学校、現在はこの角は保育園になっています。）

□所沢小学校・・(9:50着)

所沢小学校正門。市内で一番古い小学校です。当初は木造2階建校舎がありました。



★昭和10年の校門



所沢小学校（現在）の校門。戦前の面影を残しています。

□山田呉服屋跡(現在銀座中央広場)・・(10:00着)

ここに以前所沢で一番大きな百貨店といわれた山田呉服屋がありました。

宇吉郎（安藤理髪店の2階に住む）が『山田屋の表から薬王寺を廻り、再び安藤理髪店の前に戻った』とあります。

□歌舞伎座跡(10:10着)

いまは高層マンション(グレーシアタワーズ所沢)が建っている場所は昔商店街で狭い入口(一間)を通ると奥に歌舞伎座がありました。この写真では中央映画劇場(旧歌舞伎座)の立て看板が入口です。



古い商家の屋根が昔の写真にも映っています。(←印で見比べてください。)



#### □鰻の新妻(10:15着)

『本通り筋の新妻という鰻屋だけが開いていた。ヨシは店で待って蒲焼を焼いてもらった。』現在のマルエツ付近に、庇の低い少し道路から下がったところにお店がありました。当時は鰻は高く、家族のイベント等がないとなかなか食べに行けませんでした。

#### □七生橋(10:25着)

『所沢と浦和を結ぶ新街道が貫通し、その貫通式が、所沢旭町、川越鉄道の陸橋渡り初めを兼ねて行われた。町役場から頼まれた航空整備学校長は、この橋を七生橋と命名した。七度生まれ代わって国に殉ずるという言葉がいかにも日常的に使われ始めていた。』現在は七世橋と名称も変わっています。

#### □庚申塚 冥見様(10:30着)

『旭町の冥見様にお詣りに行くのである。冥見堂はいつ行っても誰かが来ていて一種の集会場のようであった。』とヨシがここにお参りにくる場面があります。この庚申塚には野老澤村元文5年(1740年)と刻まれ、野老澤の名前が出ています。

#### □飛行機新道

東川の旭橋に向かってゆったりと下る。(10:35~10:40)

#### □旭橋(10:40着)

国の有形文化財の指定を受けています。当時は大変モダンな橋でした。  
映画「裸っ子」(木暮美千代、有馬稲子出演)でもでてきます。  
所沢図書館分館で「裸っ子」DVDの貸出があります。

#### □御幸町駅跡(10:50着)

『国分寺から川越に向かう川越鉄道のガードをくぐる。ガードの横から石段を上ると、飛行場のために新設された御幸町駅がある。高いホームの上は東京に出かける兵隊で溢れているのが下からも見えた。』と記載されていますが今は石段もありません。

#### □松の湯(10:55着)

『銭湯に向かって川べりを歩きながら、宇吉郎の心にも流石に罪の意識が走ったが、彼はそれを振り切るように、保子との一週間を浮かべてみる。』ここは地続きの、田畑燃料屋さんが経営されていました。店の方より昭和46年位まで銭湯があったとのこと。店の右側に銭湯入口のコンクリート門が一部だけ残っています。

#### □井筒橋(11:00着)

この橋の袂に安藤理髪店(主人公ヨシと娘保子が住んでいた)があったとのことで話が進みます。物語のなかでは重要な場所です。『安藤理髪店はかなり下った井筒橋の袂にあった。』とあります。



井筒橋 (この右側の青い塀のところが「松の湯」跡)

#### □浦町(遊郭街)娼楼 宇治川の建物(11:10着)

『指定地というのは、いわゆる遊郭である。飛行場ができてから、公認された指定地は大いに賑わって弥七を悔ませたりしたものだ。安藤理髪店とはすぐ目と鼻の先で・・・』この建物右側に格子窓の付いた張見世があり、その前に手すりパイプを入れた跡と石の柵が残っています。この付近のことは平成28年度夏季企画展展示図録「飛行機、浦町、ディープなマチ場」所沢市教育委員会編集、発行に詳細が記載されています。

#### □深井醤油工場跡(現在ヤオコー)ここに練習機が墜落した。(休憩11:15~11:25)

『遭難といえば、時代が下がるが大正11年、ヨシの家から一丁ほどに西の醤油製造元深井商店の屋根に練習機が墜落したことがある。』ここでトイレ休憩です。

#### □黒須医院(11:30着)

『この時は幸い重傷ではあったが操縦生(原少尉)は一命を取り留め、ヨシも風邪で通ったことのある黒須医院で応急処置を受けた後、衛戍病院(後の所沢陸軍病院)に運ばれ、1ヶ月後には全快した。』神明神社の参道わきに今もあります。

□神明社(11:35着)・黒須医院はこの鳥居の右側です。

話のなかでは「保子の夫、隆雄の家は神明社の高台を東に背負った麓にある」とあり、又『ヨシは、この酒を神明神社に奉納することにした。』とあります。



旧町内の人はこのの氏子が多いです。

□弘法の三ツ井戸(11:45着)

『新光寺の裏手に廻ると、ひょっこり東川にでた。川沿いに上流へと歩いてゆくと、樺の大樹の下に古井戸があった。近くに祠があり、弘法大師を祭ってあった。』

ここで現地解散

現在東川は新光寺境内をコンクリート暗渠で直線に流れています。当時は新光寺の裏手を流れていました。



■おわりに

今回の「高橋玄洋先生(人工樹林)の舞台を歩く」は、薄日のからりとした空気で散策には大変良かったです。原作の「人工樹林」の舞台とは大きく変貌した街の中にも、当時の姿を残している場所があり楽しめました。歌舞伎座や新妻は跡かたもなく、その場所は高層マンション群に変貌していますが、古い写真で当時の風景を想像していただくとさらに散策が面白くなると思います。

皆様のご協力有難うございました。

尚★印の写真は野老澤町造 三上博史様から御提供いただきました。

以 上

担当 佐藤八郎  
荒畑千鶴子  
柴崎善博

参考文献

「人工樹林」(高橋 玄洋 著 作品社)